

シンポジウム

人口減少と都市改革

都市の無秩序な拡大に伴って、建築紛争が各地で発生する一方で、空き地・空家の増加、住宅団地の衰退、分譲マンションの放置等が各地で発生。今後全国的に拡大することが予想される。住宅、建築物を良好な社会的ストックとして造ってこなかった日本は、どうやって質を高めながら安心して暮らせる美しい都市をつくっていけばよいのだろうか。

司会
野口和雄氏
(都市プランナー)

五十嵐敬喜氏
(法政大学教授・前内閣官房参与)

野呂一幸氏
(大成建設株式会社顧問)

藻谷浩介氏
(日本総合研究所調査部主席研究員)

パネラー

2004年ピーク
12,784万人
高齢化率 19.6%

2000年
12,693万人

2030年
11,522万人
高齢化率 31.8%

ベストセラー
「デフレの正体」の
著者

終戦
1945年
7,199万人

明治維新
1868年
3,330万人

享保改革
1716~45
3,128万人

2050年
9,515万人
高齢化率 39.6%

日本の人口推移

鎌倉幕府成立
1192年
757万人

室町幕府成立
1338年
818万人

江戸幕府成立
1603年
1,227万人

(出典) 総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析(1974年)」をもとに、国土交通省国土計画局作成

12月15日 土

午後1時~3時30分

法政大学市ヶ谷キャンパス 55年館542教室

参加費・資料代 1,000円 学生 500円

http://machi-kaeru.com/ 問い合わせ 510@machi-kaeru.com 03-5215-5516